

生活科学系コンソーシアム第45回会議議事録

1. 日時: 2026年3月23日(月)10:30~12:00

2. 場所 オンライン会議(Zoom)

3. 出席者(敬称略)

構成学会 13学会、20名

国際服飾学会	水谷 由美子(会長)、新實 五穂(連絡担当者)
生活経済学会	大藪 千穂(会長)、倉田 あゆ子(連絡担当者)
日本衣服学会	團野 哲也(副会長)
日本家政学会	川端 博子(会長)
日本家庭科教育学会	鈴木 明子(会長)
日本健康心理学会	嶋田 洋徳(会長)
日本消費者教育学会	大藪 千穂(会長)、柿野 成美(連絡担当係)
日本食品衛生学会	石井 里枝(会長)、河野 通宣(連絡担当係)
日本食品科学工学会	上藺 薫(連絡担当者)
日本繊維製品消費科学会	佐藤 真理子(連絡担当者)
日本調理科学会	真部 真里子(会長)、飯田 文子(連絡担当者)
日本保育学会	戸田 雅美(会長)、上垣内 伸子(連絡担当者)
服飾文化学会	玉田真紀(会長)、伊藤 瑞香(連絡担当者)

生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会委員 9名

阿部 栄子、池田彩子、大藪 千穂、小川宣子、佐藤 裕紀子、重川 純子、杉山 久仁子、
宮崎 陽子、宮野 道雄

欠席者

構成学会 2学会

日本健康医学会、日本健康科学学会、
家政学分科会委員 守隨 香

4. 配布資料

資料1 出席者名簿

資料2 生活科学系コンソーシアム第44回会議議事録(案)

資料3 第17回生活科学系博士課程論文発表会プログラム

資料4 2025年度活動報告(案)

資料5 2025年度決算(案)

資料6 2026年度活動計画(案)

資料7 2026年度予算(案)

資料8 日本学術会議公開シンポジウム(生活科学系コンソーシアム共催、
2025年12月14日実施)参加者アンケート

杉山会長の司会のもと、審議に先立ち、議事録は柿野連絡担当(日本消費者教育学会)が作成することが伝えられた。

5. 議題

(1) 生活科学系コンソーシアム第44回会議議事録(案)の承認(資料2)

杉山会長より、資料2に基づき説明があり、承認された。議事録には、12月開催のシンポジウムのテーマについて今回検討する旨が記載されているが、5月の会議に検討することが説明された。

(2) 第17回生活科学系博士課程論文発表会について(資料3)

杉山会長より、資料3に基づき説明があった。発表の申し込み時は6名であったが、期限までに要旨が提出されない者があったため取り下げとなり、最終的には5名の発表となった。現時点での参加申し込みは44名である。時間がある方は、一部でもよいので是非参加してほしい。

(3) 2025年度活動報告案及び決算案について(資料4、資料5)

杉山会長より、資料4に基づき活動報告案の説明があった。5月の総会時に基本的に審議をして決定する議題であるが、毎年3月の会議で事前確認をしている。参加者から、特に意見は出されなかった。

重川会計担当委員より、資料5に基づき決算案について説明があった。黄色のマーカー部分は現時点では未確定の内容であること等が説明された。今年度、5月にホームページの大きな情報変更を行った。その費用50,600円は、ホームページ関連費(2)その他に含まれている。摘要の内容が、ドメイン更新費となっているが、ホームページ更新費として変更する。

(4) 2026年度活動計画案及び予算案について(資料6、資料7)

杉山会長より、資料6に基づき活動計画案の説明があった。12月の会議及びシンポジウムは昨年同様ハイブリッド開催にしたい。博士論文発表会は発表者の交通費負担などの調整が難しいため、オンライン開催を予定する。

重川会計担当より、資料7に基づき予算案の説明があった。2025年度決算案にもとづき、予算案を作成したこと等が説明された。さらに、2月にホームページの不具合があったことが報告された。保守会社に確認したところ、システムが古くなっており、今後、更新する必要があることがHP担当の池田委員から報告された。更新費用の見積もりを取るなど、今後検討する。

→資料4、資料5、資料6、資料7の内容は、5月の総会に再度審議を行い、決定する。

(5) 第19回生活科学系コンソーシアム総会について

本会議後、5月総会の日程の調整について、連絡担当者宛てに連絡する。総会は会長及び連絡担当に出席をお願いしたい。執行部が変更になる学会については、新旧どちらの出席でもよいので学会で決めてほしい。会長、連絡担当者の変更がある場合は、生活科学系コンソーシアムのメールに連絡を入れてほしい。

(6) 日本学術会議公開シンポジウム「子育てと子どもの育ちを支援する社会を実現するための課題について考えるー子どもがまんなかの社会の実現に向けてー」(2025年12月14日実施)について(資料8)

杉山会長より、資料8に基づきシンポジウム参加者アンケート結果の説明があった。シンポジウムは、非常に良かったと評価されている。資料がチャットでうまく届かないというトラブルが一部にあったが原因はよく分からない。次回のシンポジウムに対して期待するテーマ等を記入してもらった。次回の5月総会で企画案が考えられるように、この資料も参考に各学会で検討してほしい。

(7) その他

特になし

6. 報告

(1) 構成学会から

12学会より、前回(12月)の会議以降の活動報告及び2026年度の予定について報告があった。

→2026年度の行事予定について、生活科学系コンソーシアムに掲載するので提出してほしい。なお、会員外でも参加できるイベント等についてもわかるように記載をお願いしたい。

(2) 生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会から

日本学術会議は法人化に向けて動いている。今期で任期が終了する会員分(約半数)については、法人化に伴い選考方法が変わる。各学会に会員候補者の推薦が今月中旬を締め切りとして依頼されていた。これから9月末に向けて選考が行われる予定。通常、連携会員の推薦・選考もあるが、次期については現在の連携会員の継続意向の確認がある状況で、新規の連携会員の追加はないようである。

12月14日に開催された子育てのシンポジウムの内容を含め、分科会では子育てに関連する報告書案をまとめ、日本学術会議に提出をして査読を受けている。公表できる段階になったら本コンソーシアムでも紹介する。

以上